

派遣隊ニュース

～ with 岩泉 ～

No. 1 平成23年4月5日

かんばってるよ～



東北地方太平洋沖地震で大きな被害を受けた交流都市「岩手県岩泉町」から、震災後の避難所対応等で町職員の疲労も大きく、健康にも影響が出てきているため、3月23日に昭島市に対して職員派遣の要請がありました。

この要請に対し、昭島市では、3月27日から4月27日までの約1ヶ月間、5班体制で延べ20人の職員を派遣し、避難所の町民対応や災害対策本部の保安事務を支援することを決定しました。

このニュースでは、派遣隊員からの情報をもとに岩泉町の現状等を職員の皆さんに伝えていく予定です。

今号は、派遣隊第1班(3月27日～4月3日)の皆さんの報告です。

◎岩泉町派遣隊第1班

・派遣期間 平成23年3月27日(日)から4月3日(日)まで

<平成23年4月4日(月) 8時30分 市長室にて報告>

- 内陸部については、被害はあるものの落ち着いた状況にある。被災者の皆さんは、岩泉町民会館と龍泉洞温泉ホテルに避難している。
- 沿岸部にある小本地区の津波被害は甚大であったが、現在では、ほぼ更地となっている。
- 支援物資は多く届いている。
- 交通機関は、ほぼ平常どおり運行している。(岩泉線は一部区間のみの運行)
- 小本地区を除き、水道水は供給されている。
- 約1ヶ月後に仮設住宅を完成し、120～130所帯が入居予定。
- 町の事務については、平常化しつつある。各避難所は、職員2人が24時間体制で対応しているが、このうち1人を派遣職員が担当することにより、町職員を支援できたと思う。
- 小本地区では、震災により所有者が不明となった物が小本小学校の体育館に集められていた。その整理事務の支援も行った。
- 他の市町村からの派遣隊とは会わなかった。
- 昨年4月から岩泉町へ派遣されている森田慶人さんと岩泉町以外の市町村を視察したが、特に、宮古市田老町、山田町は壊滅的被害であった。自衛隊が手作業で不明者捜索に当たっていた。



【北川市長の派遣隊員への言葉】

私も危機を想定したまちづくりの大切さを改めて認識している。隊員の皆さんには、この体験を生かして、今後も活躍して欲しい。



【派遣隊の皆さんの感想】

石川幸雄さん(都市整備部管理課)

被災者の現状を思うと言葉も出なかったが、岩泉町のために、ほんの少しでも役に立てたのであればうれしい。

高水昭利さん(都市整備部下水道課)

被災地では、とにかく「人」を必要と感じた。今回に限らず、復興のためにもっともっと手伝いたいと思う。



吉田和史さん(企画部企画政策室)

数ヶ月経つとテレビや新聞での報道も少なくなり、被災地のことを意識しなくなってしまうかもしれない。しかし、被災地の復興には10年以上の月日がかかる現状を思えば、その間、苦しみ、がんばっている人たちのことを忘れてはいけないと思う。

大澤正和さん(総務部情報推進課)

被災者の方々と話してみると、元気で明るい方が多かったことに私の方が救われた思いだ。ありふれた日常が、とても大切なものであると実感した。



第1号の終わりに、伊達勝身岩泉町長からの手紙を紹介します。

拝啓

陽春の候、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度の東北地方太平洋沖地震に伴い、本町に対しまして、義援金及び支援物資、貴市職員の派遣をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。また、この度は、貴市医師会から本町の医療体制にご配慮いただき、自動車の寄贈の準備をされているお話をお伺いし、大変失礼に存じますが、これまでのご厚情も併せて、まずもって御礼申しあげたく、貴市の救援隊職員に託させていただきました。

本来であれば、私自ら参上し、直接御礼申しあげるところでございますが、現在、避難住民や被災現場の対応等に追われている状況にあります。この状況が落ち着きましたら改めて参上して御礼に伺う所存ではございますが、とりあえず書面に御礼申しあげます。

末筆ながら、貴市の益々のご発展と貴市民の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

敬具

平成23年4月1日

岩泉町長 伊達 勝身

昭島市長 北川 穰一 殿